

佐倉を知る【四】 ~全部読んだあなたは佐倉通!!~

アメンボ号の冒険 講談社 [Fシイ]	椎名 誠 著 〈小・高学年〜〉	作者が小学5年生の時に実際に体験した、印旛沼から続く花見川での「いかだ下り」の冒険などが綴られています。身近な地域が舞台である上に、少年期における好奇心にあふれたわくわくする展開が読者をひきつけます。 【佐倉学：小説】
神様のボート 新潮社 [Fエフ/BFエフ/C93.6エ]	江国香織 著 〈中学生〜〉	主人公の葉子達が一時期住んでいた場所として、佐倉が描かれています。葉子達が遊びに行く城址公園など、佐倉の町が登場します。 【佐倉学：小説】
忘れ残りの記 講談社 [C90ヨ/ほか]	吉川英治 著 〈中学生〜〉	吉川英治の母は、佐倉の人でした。英治が佐倉に来たときの話などが描かれています。 【佐倉学：小説】
ロシアにおける ニタリノフの便座に ついて (「はじめての川下り」 収録) 新潮社 [B914.6シイ]	椎名 誠 著 〈中学生〜〉	本書に掲載された「はじめての川下り」という短編で、椎名氏は、第一インバ丸と名づけた舟で印旛沼に漕ぎ出し、沼と湖の違いを実感しています。 【佐倉学：エッセイ】
胡蝶の夢 新潮社 [Fシバ/BFシバ]	司馬遼太郎 著 〈中学生〜〉	多くのファンをもつ司馬遼太郎氏の作品です。主人公である松本良順は、順天堂をつくった佐藤泰然の子どもであり、佐倉にゆかりのある人物です。松本良順は、新選組とのかかわりが強く、幕末の歴史に興味のある人にもおすすめの一冊です。 【佐倉学：小説】
S倉迷妄通信 集英社 [Fシヨ]	笙野頼子 著 〈中学生〜〉	S倉に越してきた、猫好きな作者の生活が、独特な作風で描かれています。このS倉はおそらく佐倉だと思います。著者の笙野氏は、平成6年に芥川賞を受賞されました。 【佐倉学：小説】
力人 雷電為右衛門 新潮社 [Fモリ]	もりたなるお 著 〈中学生〜〉	史上最大の実力を誇る伝説の力士雷電を、藩や相撲会所との思惑を絡めながら時代小説として描いた作品です。雷電の妻八重の故郷が白井であり、妻八重に関わるところで、白井や印旛沼の風景が描かれています。雷電自身も幾度となく白井に足を運び、晩年にはかなり長期滞在しました。現在は、妙覚寺の境内に「雷電顕彰碑」が建ち、この碑前で毎年2月11日に「雷電まつり」が行われています。 【佐倉学：小説】
銃殺 講談社 [Fモリ]	もりたなるお 著 〈中学生〜〉	昭和維新をもくろんだ陸軍歩兵第一師団の青年将校が、昭和11年2月26日、東京で決起した。しかし目的を達せられずに全員投降。将校には軍法会議の結果、死刑判決が出された。その銃殺を執行したのが、佐倉連隊の兵士であったという話です。 【佐倉学：小説】
仮釈放 新潮社 [Fヨシ]	吉村 昭 著 〈中学生〜〉	佐倉出身の架空の人物が三重殺人を犯すという、重いテーマの作品です。随所に佐倉の風景が描写されており、臨場感せまる作品となっています。 【佐倉学：小説】
子規全集 第13巻 (「総武鉄道」 収録) 講談社 [庫5 918.6マサ13]	正岡子規 著 〈中学生〜〉	本書に「総武鉄道(旧字)」という紀行文があります。明治27年(1894年)12月に総武鉄道の東京(本所)―佐倉間が開通すると、子規は列車に乗って佐倉を訪れました。佐倉に着くまでの句や、市内を歩いたときの句が載っています。 【佐倉学：文芸】
香取秀真全歌集 (コピー製本版) 中央公論社 [C91.16カ]	香取秀真 〈中学生〜〉	香取秀真は、現在の印西市船穂の生まれですが、のちに佐倉にある麻賀多神社の養子となりました。秀真は金工家として知られていますが、歌人でもありました。本書には印旛沼や佐倉の知人を詠んだ歌が掲載されています。 【佐倉学：文芸】
椿咲く丘の町 [910シ/C90.7タ /C90.7シ]	高比良直美 〈中学生〜〉	小説『死の棘』を書いた作家島尾敏雄氏が佐倉に住んでいたことを知っていますか。『死の棘』にも佐倉が描かれています。読み進めるのが難しい場合は、島尾氏の佐倉での足跡をたどった本書を、ぜひお勧めします。 【佐倉学：文芸】